

《入選》

性別なんて関係ない

稲枝西小学校 五年

西田^{にしだ} 寧花^{にか} さん

私は、この人権週間で、性別について深く考えた。これまで人権について考える時間には「男の子だってピンクが好きだっていいよね。」と当たり前に思っていた。そしてこれをおかしいという人のことを「ひどい。」と思っていた。

だが、ある日クラスの男の子が、かわいいうるキャラが書いてある下敷きをもってきているのを見た。これを見て私は思わず、「えっ。」と声が出た。私は自分が信じられなかった。なぜ、人権について考える時間には「おかしくない。」と思っていたのに、今

「少し変だな。」とってしまったんだろう。でも私が「えっ。」と声を出しているとき、周りにいた男子は「○○そういうのが好きなんや。いいやん。」と言ってその子をほめていた。私は、人権の時間に出てきた意地悪な友達と同じことをしていることに気付いた。そして自分の理解の足りなさに恥ずかしくなった。

家で人権について考えていた時に、四年生の時の出来事を思い出した。それは、テレビで「消防士をしている人のグラフ」を見ていたときだった。内容は消防士の男女の比率のグラフだった。見てみると、男性の割合が半数以上で女性の割合はとても少なかった。なぜ女性の割合は少ないんだろう。それは、私たちが勝手に消防士といえば男の人でしょ。女性が働きにくくしているからだと思っ

た。そのままテレビを見てみると、一人の女性消防士が映った。その人は、「誰に何と言われようとこれは私がやりたいことだから。」と言った。私は、とてもかっこいいと思った。そして日本にももっとそういう人がふえたらいいなと思った。

今までの私は、私の普通が基準になっについて他の人が私の普通と違ったらおかしいと思っていた。だけど、この経験で考えが変わった。今後私の普通とは違う普通をもっている人に出会ったらまずは「この人はこういうものが好きで、こういう性格なんだ。」と受け止めるようにしたい。そして、「性別なんか関係ない。」を世界中に広めていきたい。